

ハーブがつなぐふるさとづくり (平成25年度認定)



那覇市は戦前まで農業の盛んな地域であったが、戦後、基地や空港、商業地などの建設により地域内の農地の確保が厳しく、現在では近郊の市町村で農業が展開されており、その生産活動の中心となっているのがJAおきなわ小禄支店である。

平成元年にはフレッシュハーブの契約栽培を小禄農協(現JA小禄支店)、経済連、エスビー食品(株)の三者で開始。平成9年にはフレッシュハーブの取扱高が1億円を突破。平成14年には1億8千6百万円の実績となっている。

順調に生産が推移する中、契約20周年を機に、エスビー食品(株)との協同で近隣の小学校へハーブ苗や、給食用としてハーブを提供、また、授業ではハーブを使ったソーセージ作りを行うなど地域とのコミュニティづくりに取り組んでいる。

また、女性部ではハーブを活用した食育活動や加工品の開発に取組み、バジルソースはJA小禄支店の朝市やJA祭り、那覇農産物フェアにて販売されるなど地域との交流を通じハーブの消費拡大にも力を入れている。

このことから、生産基盤からの生産活動により地域活性化に寄与していると認められる団体として生産部門に認定された。



ハーブ生産風景



フレッシュハーブ集合



バジルソース作り



バジルソース



JA小禄支店朝市



小学校へハーブ苗提供